

6.1 カリキュラムの編成

進捗状況報告

2007年度より実施されている新たなカリキュラムの安定的な運用・実施を心掛けている。特に、後期課程では「特別研究」という科目を設定し、学生の実状にあったよりきめ細かい指導が可能になったが、これを効果的に運用することを各指導教員に求め、学生の学位取得までの研究と研究の公表をサポートしている。学生の実状、研究の動向、教育効果などの点から、不断の点検を大学院問題検討委員会、領域代表者会議を通じて行っている。

前期課程と学部教育との滑らかな連携という点では領域によってはまだ十分ではない。優秀な学生の確保という面からも、実現を目指して検討を続ける。

総合心理学専攻の臨床教育学領域が2009年度設置予定の教育学研究科に移行するのを機に、心理学領域、教育心理学領域を統合し、研究の多様化・深化に対応したより柔軟で効果的な教育課程について検討を重ねてきたが、間もなく成案が得られる見込みである。

なお、前期課程において、より広い視野を獲得し自らの専門分野における研究を深化させるために、専攻、領域の壁を越えた学際的な科目の設置の可能性について検討を始めた。

学内第三者評価

一部で学部、前期課程の滑らかな連携が不十分とのことであるが、研究科の目標である以上、その速やかな改善が望ましい。後期課程の「特別研究」は学位取得に向けた積極的取り組みと認められるが、指導教授の個人的指導に頼ることなく、共通の成果発表の場を設けるとか、学会での報告に援助が与えられる等が実現し、研究科としてのサポート体制と連動して進められることが望ましい。